

淡海錄

農務省
和圖書
第九號
第六冊

太政官文庫
和書門
一
二
三
八
九
冊架函號類

內閣文庫
和書類
一
二
三
四
五
冊架函號類

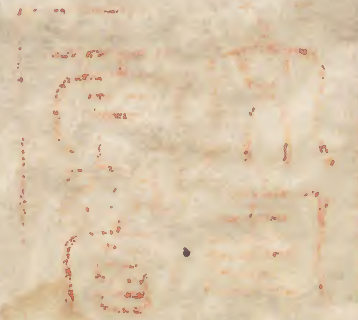
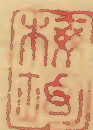
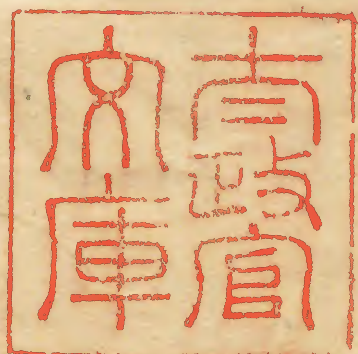
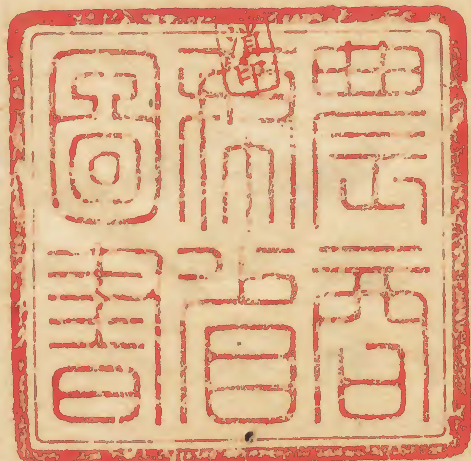
風土

內閣文庫	
番號	和 11131
冊數	9 (2)
函號	174 170



Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
© Kodak, 2007 TM: Kodak







山海錄 卷二

川 鴻 塚



世之卷乾坤
斯其乾之卷

六六三三卷

明治十四年購求



下卷

上卷

今ハ山は麓にあり

遊御井寺 黄壁唐僧即非

台山歴罷宿湖傍 曉起徑行列上方
山色秀鐘王者氣 林花清汰御泉香
安禪俱是新傳戒 觸目無非古道場
勝既窅然同我因 不知身已在他郷

同 石川大山

智證當年闡大乘 瑜伽密顯孰傳灯

雖然地似青龍寺 多是西川若直僧

私云石川大山石川若直某と云ふ元和元年
大坂為陣時先登れ切つて去りても軍法と破
の智あり馬某を放下して洛西北山下に居て後
東照君台徳院を教免の命下りぬ其時大山長
く奉仕に公を能く中々あり

引くは小川の清くは危の波は新も静し
け分我詠し長く加茂川を渡り名利世憂に
南へつてしきしフシヤウ集に也る 彼白扇倒掛

東海天と云ふは往々富士北白もは人ありえ来る川
氏と三州の産をすすれば白川修學寺の迹に伝説を
其時の方に

朽りお望を二所そくと此流其来りて心かほりてと云
をかきそ和りいほけは心へ

併け分フニヤウ集に不見
又山一代云かろ

同長壽山

松類抄

顯補

君代をそがけ此山の岩根松を度やらうい花の咲きを
いづ波のなみの山はあつてたのりかてはるる代外
世の中とよひかへはふかともてはるるは山とてあつる

意圖

見よはわの志望の唐流ゆめとれるわとけ此山の是の今と

之井山中の名所

峯とりの山と云ふ 是峰にさくるの園あり 早に客に
るに

北に大船小船の園あり 山中に 竹筒井浄妙坊の跡 小池あり

村雲橋 貪乞水 今八條天 尾の池 沼新川 仙人水

行波坊坂 風坂 秋後坂 不動坂 護法堂地 花の谷

琴緒谷 現在谷 地獄谷 南ゆき谷 千手谷

如意高嶺 北 赤龍文 鏡谷 唐院 思岩 千石岩

忍辱一岩 三尾新命石 南人多能石 龜石 三抽枝 未奉記



三井山中十境題

重臺白楊 新羅夕蟬 龜塚曉霜 唐院夜雨

竹并喬杏 護法丹楓 琴谷冷管 龍池空月

及窟古鐘 正法毗盧 詩哥不記本書不見

一如之嵩 山南北有 昔東山如意山頭 慶保胤栖遲

又云聖護院門主一代如意寺号有 伝如意寺又十房

如意西門瀧有 洛陽ヨリ東山ニ見ルナリ 天文十九年 細川晴元

佐々木定頼如意嵩ニ城ヲ築

魔境ニ有災廢城スト云々穴太記及塵塚等ニ出

一逢坂山 關所本道或作合坂會坂相坂玉坂トモ出

昔仲哀天皇崩御之後別腹王子忍熊王

神功皇后對矛指企宇治竹籠城皇后家

臣武内宿祢智謀以宇治責落跡追慕

歎味方主客此ニテ相逢坂ナルニ依テ相坂ト云

忍熊王戰負勢多川身投杲 色葉集及前代記出

武内大臣傳

孝元天皇曾孫立彦太皇子孫性智仁勇忠太足

年十有六歲奉勅尽東海見國狀察民氣

分明聞其消息從日本武皇謚西海征東極
從神功皇后擊三韓制二王事六代朝而補
萬機大度正王道微曲成天下平安壽三百十
有六歲生涯無悔薨大忠之中故謚高良太
公諺曰聖氣真質任輔佐之良六朝合體
一夏不違一朝之合尚其德奇也况六合一代
忠尚其功大也况六朝忠乎至哉大哉

武内君攻押能王詐請降和約以互投刀河俱
断弦而隔于河為誓預帶木刀一匿弦於髮

中附刀於馬腸而兩兵之河岸行約狀武内君
急張髮中之弦帶馬腹之刀渡河制王兵出日記
又王坂延喜茅四宮所流離地也仍以逢坂
書為王坂

又云五大院安然者八地菩薩也云然不免
貪極因自天皇為救貧道誠自此逢坂開路
入洛中金銀米錢布綿之類博一日被頒安
然其日限無過者倍感先業為懺悔云云
一逢坂開置夏文德天皇天安元年初置關

於逢坂_ニ又桓武御宇_ニ三關置_ヲ

鈴鹿_{イニ}不破_ニ逢坂_{アリニ}又勢田鈴鹿不破_{ト云テ}

逢坂ナニ 出神道百首抄

又云勢田橋關所入勢田川下關津有今井四郎兼平

勢田川ヲ守リニ東兵八嶋ノ瀬ヲ渡_レ彼ニ人數ヲ

積リニ千騎野_レ有ト云云

西濱堅田与木濱西_ニ拾一町ノ船渡_ニ此所關所故堅

田ヲ関之濱_レ云

大津湖山与山の林_ニ小山_{アリ}以_テ所昔大津比國所_ニ

ありと云云_ハ伊勢塚_ノ跡_ヲ計_ル涼_ノ夜_ハ糸_ノと_ス

以_テ坂_ノ多_クら_ハ西_ニと_スら_ハ常_ハ一_ノ死_ス良_ク課_スら_ハ

箕_ノ浦_ノ右_ノ尾_ノ柳_ノ瀬_ノ虎_ノ杖_ノ涼_ノ越_ノ前_ノ塚_ノ西_ニハ_ハ橋_ノ小_ノ市_ノ場_ノ小

矛_ノ子_ノ村_ノ涼_ノ志_ノ賀_ノ山_ノ中_ニ越_ス小_ノ室_ノ越_ス大_ノ友_ノの_ノ附_ニ安_ノ河_ノ与_ス蘇_ノ山

横川 東山の防所日本紀

今関所者

水口湯番所 北梁_ノ瀬 從彦根ノ妻所改女

虎杖_ノ涼 越_ノ前_ノの_ノ塚_ノ実_ノ所_ノ越_スら_ハり_ハ者_ノ所_ノり_ハ堀_ノ端_ノ鳥_ノ鳥_ノ改_ス之

正田 与_ス女_ノ改_ス從_ス若_ノ川_ノ支_ノ配 天隅 下_リサ_ト改_ス進_ス江_ノ比_ノ中_ノ有_リ

朽木山中の番所

從朽木支碕從若川々馬川々番所有

一 向山

昔ハ枝多一今松
別ニ切多未入り

一 志賀宇佐川

左陣山あり

一 睿南無動寺を長壽山と云ふ

比睿の山々云々多れハ長壽山と云
盛衰記ニ出

一 比睿山東御山と云ふ大嶽と云ふ京ノ山ノ巔と四明の洞と云ふ山の巔と

初曰日枝山後比叡山大日枝小日枝西塔横川の中峯と云

得睿山 大嶽 都富士 良岳 鷲山 熊野峯 我立松

天台山 良峯 睿峯 台山嶺 波母山 睿阜 台峯

四明洞 杉洞 礮馭 盧嶋 三塔山門

每睿山名所案内記ニ有之。○山ハ堅六町ト云睿山本朝五岳ノ一ツアリ
又七高山ノ其一ツアリ

壹岩此一の鳥居より比睿山成りては駿河に寫すと

〜〜に同し伊勢物語集注に出 將門純友宅比山大内を

壹見し〜謀反成企と云ふ 出神皇正統記及前大平記

涼々〜津代と云は大日枝や小日枝の行に可る事云

大日枝や杉立と云は尋ねば云ふ〜も同し〜この神垣

歳と云ふ事と云は松に唐あり事云ふかいりて花と云ふ事

山々〜見たり家あり獨花風を心にす〜を屋らなり

鳴々〜記述の弘世ニ世も光る行〜法のと〜

籠の山有明の月ハ〜〜我ら松に棲る〜

昔字之みの光にそる雲はれいく末々おえの山より
つひに命をうゝ志山にまはひくはの花をえんハ
色あたる雲も見れば君代へのまはれ日さしの山あり
かまじに一笠をた高根を花の色と目さればけはしつてさる
家代のそり日さればけはしつてさる

應制北叡山 月建

近當東北良為山 台家三千護帝寰
從一睿文比聖教 津々春色入天顏

睿岑暮雪 建仁紹柏

良岳由来護九重 近濃遠淡為君容

晚風吹雪千層頂 始信詞人擬士峯

同峯 白川雅喬

対るはる雲は夕けの影にそる雲はれいく末々おえの山より

望北睿山 熊谷立閑

良山嶽我々列碧旻 英灵長作帝家鎮
瑞雲倚壘撐期日 山色湖光一様春

全 叙月坡

久聽天台悔到遲 只麼當上見山巖

三十古院移摶鬼
華頂峰頭風雨怒
單傳宗乘拳揚得

五百應真變化狸
石梁澗底水波悲
一丈塔前竹亦奇

比睿山

林道春

興公昔作四明遊

能使遺文後世留

杉洞窟深地蟠動

竹生嶋泛浮萍幽

三朝相草君王殿

一夜風波內相舟

只有旧時今不改

山雲湖影日悠悠

過山門

藤原通憲

出無題集

一辭京洛登台山獄

境僻路深隔俗塵

嶺檜風高多學雨

巖化雪閉未知春

琴詩酒真整拋處

空假中觀閑念辰

紙閣灯前何所聽

老僧振錫侶應真

登睿山謁澄上人

式部少辨藤原朝臣常嗣

城東一峰聳

獨負睿山名

貝葉上方界

梵香驚嶺頂

甌食藜藿熟

白鉢練砂成

輕梵窓中曙

疎鐘枕上清

桐蕉秋雨露色

鷄犬冷雲声

高際丹丘地

方知南山獄暗

比睿と都は富士とくさし一なり

京悉化つゝはに之終るものなれば於のふゝいゝれり

礙洞嶋成三山夏

去来諾尊去来册命以天元瓊房探是滄海其房
滴瀝潮監凝結化為一嶋名曰礙洞嶋根一而端三南
初頭者今金峯山是西中頭者葛城山是東北後
頭日枝山是

右出大成經及陰陽本記三

一比良山

豎八町と云七高山の一行りり山頂樹木る一山を築成生い
薪に用ゆ常に然四然徑を○後の山を吹踏山といふ實の事乃
大地震に山崩れ山下にあり櫻木村阿居村小宮村 三ヶ所
同一時に埋る朽木尾州のなり

新古

花下より花良山風吹くくく 大和の山は跡をゆく

漢字

吹くは良山の山風吹くくく 大和の山は跡をゆく

千載

標花比良の山風吹くくく 大和の山は跡をゆく

都南より字くそくそく 大和の山は跡をゆく

釈静安嘗栖比良山讀十二佛名經礼并修懺
其声聞帝闕 出元亨釈書

高大夫公輔キニス元慈覺大師弟子堪慶阿闍梨何縁
大内伺候春宮御母ト通ト露ト顯ト夏ト執政忠公聞之
即令還俗号高公輔皇后宮大進式部權女捕
讚岐守被補赴任国道有四堂日在木象兩界曼
荼羅經ナ年後諸尊座位參差以鞭指曰此佛ハ御レ
座ト彼レ此菩薩御座此ニ十二レ位トハ如其教導皆被居
置レ後公輔比良山隱居鹿來為此人被令

一 小松山

俊成

子此日して小松山をふりてはるかに系代に於て了るる一

定家

此山は小松山にありてはるかに系代に於て了るる一
此山は小松山にありてはるかに系代に於て了るる一

一 普門村内なる山

一 比良山神 白鬚明神 同天神 共山下に宮居有

蘆江秋渚釣魚船 萬頃蒼波蘸一天

華表山巍然白鬚社 磯頭鎮座日風煙 出迎路紀行

此四十八躰の石仏ありて内二拾餘坂本慈眼大師廟
前にありてありと

春山山王地の千手像木昔ハ此山にありて常以杖光

示瑞因縁本に記す

一高崎 白蓮山 長者親善此像本八幡山と云ふ其本
 曰記に云或時三尾明神化无葬在高崎郡街渡其
 本其本木朽して和加葛下郡神河比浦に在り此丘
 乃其本木朽して命仏工彫刻十一面観音高六二丈
 六尺の像昂今の長者此親善是なり其像本
 出白蓮山蓮華谷

白蓮山下有寺曰蓮華寺 釈嵐齋
 高仰 白蓮山上巔 素聞 灵木送年々

分身三昧補陀境 眼界景光春色鮮

一三尾山 高崎郡 三田の上にあり 水尾とも云ふ

阿心く三尾のふた親の浦風は分りて松の月と云
 高しゆ三尾の中山松と云ふは今もかきもを千代の波合
 吹行所は山風のきも高崎のまきの松山と云ふなり

一本都婆嶽 高崎郡 栢生村上の山

一大濟山 親善山 濱成親白浪と云ふ海原出禱
 此山は天浦に跡る乃と云ふなり 越えし山は
 越く不及なり 山中を千越と云ふは天師千と云ふなり

山形に揚るるに故に去るるを新新るる

一行市谷 伊香那に有る高山あり

柴田修理介と秀吉公と柳ヶ原合戦の時佐久間玄蕃

けしきに陳取を引市に家の北山に根山と云ふ

一土藏ヶ嶽 伊香郡 今并京の上には有る山あり

一己高見山 内郡 庄号兎田上

山上に観音堂あり寺号本高見 伊香郡のちを去る

一菅山寺山

一回神山 木の本坂口井上

一越ヶ山嶽 峯々小名あり 蜂ヶ谷 大釜山 尾形山 清水山
此山谷 尾形山 桑田山 観音坂 庭戸原 余吾の海邊と云

は山の熱名海山と云ふ又越ヶ嶽と云ふ谷は、この本のと
此谷縁記に云

一勤生山 けし一夜に生れ故に云ふ 本の本に精鹿あり

一山本山 又朝日山とも云ふ昔は城山海邊なり

朝りて云ふ山城の國にはあり 近江に山あり里あり 西に方に
月本の嶺と云あり 夏の山に朝りてと云ふれ八月八月の
の傍りてと云ふ山ありと云ふは、朝りてと云ふと云ふ
全山に此と云ふ山ありと云ふは、朝りてと云ふと云ふ
山ありと云ふ山ありと云ふは、朝りてと云ふと云ふは、
神の光をうけり

一 小谷山

海井北城をる

前峯 栗ヶ谷 雀山下 田河村 赤川 谷川と云
右の城屋敷も清水谷に今に所を 其跡をとり
山の後を 高月川山下に郡上村あり次に丁地山下
虎侍前山あり小谷の東北の峯 雲龍山と云 此川
上に小室村あり

一 上夫馬上北観音寺山

一 伊吹山

或 伊福貴 五十音 伊吹 膳吹
伊布老 異吹 意布岐 伊夫伎

七高山の其一つあり 員徳越前近江之今四、跨る山あり
標高七十里上りて三里余上にひく 龍と云七つわゆると云

冬山と月未九月に山ありく 攀加し 伊吹禰定と
不て語る 七 標高に先登 伊吹山の南に上野村と
ありし 一 乃の程三里山の伊吹村より上りて 龍と云
を里も三里 夜中にも 標高は下向なるなり 一 山半
余に大要るといふ所あり 山上六瀬と云 標高の
晴天雲を引け 龍河にあり 山紀州の慈明山 越前の
弱々嶽と云 員徳屋法ハ 龍下に 見知らぬ頂上に 凹なる
下に 乙坂と云 其中に 石佛ありと云 小谷に 志と云 一 山ハ
近江へ 婦川 員徳ハ 友川 二川に 大河と云 常に流る
常と云 標高を 伊吹山 龍と云 なるなり 實に 友川

一 八尾山 八尾山 八尾川の上には所々首をの軍場とす

一 勝山 日大堀川をくよの山 東照君は山城孫不討山に
御疎取す

一 八尾山

一 黒津大日山 竹生流れ喜方るよてけに止る山とす

一 三國ヶ嶽 大君ヶ細れよの山 保月山 分尾山

一 冷ヶ嶽 月果比峯

一 飯高山 永源る前山

一 佐和山

一 親高山 桑實山 け想山を織山とす

一 箕作山 清水ヶ鼻の上山

一 荒神山

一 釈迦ヶ嶽 八風越の上山

一 水田嶽 千州越れよの山

一 綿向山 高山とす

一 銀山 君ヶ細に有

一 水口城山

一 甲賀飯道寺山 高山とす 坂八丁め立屏風 甲賀谷のちをす

一 鈴鹿山 近江と伊勢との境山 半分分とす

一 藤生之嶽 高峯也

後九系

一 やまの嶽 高峯也

田の上はさくふに草も付るなり
今やまゆきの草もすくすく

一 回北上不動山

一 阿志やま山 石部

一 石部之山

後世に及ばぬ山と云ふと又西山に四つ
の藤 東照宮北の山に合はぬ山と云ふ

一 月令猪る山

委此紙中に出入あり

一 甲斐那岩根山 天仁元年大嘗会悠紀方近江比石根山

新抄

石根山をすくはるるを衣被
すくはるるにたるるに

一 三上山 又百足山と云ふ 昔松の極一と云ふ比良の嵩と云

世行三之三上山者富士権現一夜之中築出富士山跡迹

精為湖今残半篁成山此三上山也故富士登山之行人

幾日齋近江人者一夜積進而上若在山中欲山既荒

則呼近江々々則止矣

曰書曰仲哀天皇庚子冷海国不知足彦云者之女不知好

媛君生一美丸石形如雞印子大如雞印十一夜間成丈

日々長成山人名此山曰産神山或三神山凡カク

玉葉

志賀比浦や附るる後後深雲に三上山をさかす

新抄

るる、める三上山をさかす、いふ願ふるる川をさ

後京極

一 有馬尾山

甲斐山中

油日縁起に出

^新 尾山に玉柱穴ありぬきをかりし
尾山に玉柱穴ありぬきをかりし
尾山に玉柱穴ありぬきをかりし

一 圓見詰

田原山ハ宇治より田原にゆき其間通の徑
三里候云宇治田原山嶮祖に
其絶頂に上れば西南を見たりと云
見疎と云

一 田代上

三尾山

高砂にあり名所西所云

^陸 衣手にあり山や山にあり

一 板目山

半山

多師山

鷹峯

^{トホガ} 小竹生山嶮
云花田田上也ト

一 安土山

一 八幡山

一 墨山

共に古跡あり

牧村へ小橋に過る

一 南北藏王山

日光谷に山あり岩木生薪用

一 守山

於顯抄

皇極經世に八百萬代の神も有り常盤にあり

守山にあり

白雲も守山にあり

以にちん袖以人月成るや所の客も時る北を以て

夜もくく暑き人月ゆるいづらぬくち成るやそる

わくら杯の親はいふにゆる山北下の歌のをとめを

一 岩岡山 山城堺 石部一五十所 醜碓一五十所

一 石山 奇石怪巖天生莊觀地所戒人豈不思焉

一 千町嶽

一 袴腰峯

一 黒津大日山

一 牛尾山 山頂の山近江堺峯と較、巖又近高山云

昔行禱居士東ヲサシテ飛去駐履於此仍建

普陀山名云牛尾山法巖寺洛陽清水之奥ノ院

氏云本尊千手觀音天智天皇御作伝本道音羽村

ヨリ入溪間十八町地景好大津ヨリ山ニテ本道二里山越

經テ五十町松本山膳所ヨリ上レ道ヨシ

峯高尾牛尾山に入る人を早車より下るなり

一 馬場の留針跡

昔史御をと記るを人より史御そて云行有

と記るを云と云け所の名とそとる

附谷之名所

一 信樂谷 百谷 一 塩津谷

一 甲賀谷 一 地獄谷

一 日野谷 熊野谷
コヤ谷 一 大浦谷

一 中郡谷 一 七里半山中谷

一 久禰谷 一 朽木二里坂谷

一 伊吹谷 七平アリ
カクト谷 一 比良谷

一 小谷 中野谷 一 睿山十六谷

一 巢ヶ谷 清水谷 一 長等三谷

一 伊香谷 一 大谷

一 長命寺山 地谷 天物谷 牛ヶ谷 上フクロ谷

清水谷 蛤谷 コヤ場谷 浦谷

附坂

一 睿山 東ニ赤坂 西ニ雲母坂 不二門ニ上リ坂 下リ坂

横川ニ岩鼻 四十八曲坂 飯室ニ奈良坂 睿南坂

一 朽木ニ二里坂 一 大杉ニ山中坂

兩山高山之間者必有川有瀧者也川崎者必不

深有洌者也ト云ク

一 勢田河 大小橋二ツアリ小橋 中四間 長七間 大橋 中四間 長九十六間

中嶋ノ間十五間

傳云後宇多院御宇恩性律師初而造此橋云

瀬田長橋 唐橋 大橋 ト口キノ橋ト云

河洞物多ク流々々々 東流ハ瀬田此長橋多ク流々々々 流々々々 旅人も乃川露路に喜そ有り 宇多院御宇 恩性律師初而造此橋 松坂も昔よりそ有り 宇多院御宇 恩性律師初而造此橋

相坂此溪々々 然る 於此ノ勢田此橋ノ為之修之後

過石山望河橋

橋祝忍性河橋百八十九所ニ營スト

秦昭王初作橋 始皇次作石橋

長流河伯地 一字石灵場 僧風有良辨

武雄思秀郷 乱雲粧嶺色 洞水副波光

斫額渡橋上 往来今不妨

百川入一湖 勢田川八嶋 鹿飛 供心瀬 下曾束渡

陸川

其の月もを以て河系は柳蔭中風立の去りて帰ら

陸川

げりて三上の高城国より我願よりぬ那国の川を

一水口川

一横田川

常に舟渡し甲斐谷より出

柳田さき川界川津川中山

はく那国川より舟渡し

一二保川

仁保川より

上六日野川 猪田川 橋川 下八横谷川 舟河

原谷ハ然野支藏王より出一方ハ橋川より出

横山村より二川より出

一愛知川

原泉三月河内系八君々細南ハ八尾西ハ十州より三尾

原れより飯高山より尾原又ハ尾原の滝より出

とて流しとて入里水出れを流しれ一舟分く常に東風吹は

水而一渡りく一而の流しとて一の流神は流し海不々時々

必川水出る人流れ死るととく川を新海

福島の間に流しを新川より二人は尾原水に各渡ると

三國行記にあり

一高文川 大上川 いさや川とて不

原及ハかを原 大君々細より出 八坂より

あきふさ 産の山よりいさや川いさよとていさよ系名より出

一書知と高文との間に宇曾川 下ハ之川をい出

一大坂川 とハ又僧 下ハ善利川 産根の越渡の川也

一 矢倉川

平原にありて橋あり

一 飯村川

上ハ伊吹弥高南ハ奥山より流れ出中に
碓氷川と云ふ其の浦より其のうら川と云
下ハ朝妻川と云ふ元の川と云下より其後

十六夜記

伊とゆふに濁る心成る記をたす此世の吾や碓氷井の水

一 姉川

水上に十王の姉あり故に姉川と云 伊吹の流に

一 唐国川

橋あり

一 馬渡川 落太川

上ハ己高見 上大の津川と云 落太川は姉川
唐国川 馬渡川 落太川と云けり
其後一あり

一 加藤川

余昔よりかく尾上一あり下より尾上川と云

一 海津川

目黒川 以子川 唐川 石田川

尾上川 海津川 大浦川 津 張河川 新保川

一 赤木川

西湖一盞の大河 阿用川も 新唐川も云 赤木川も
上野赤木丹波境より出 赤木川流れあり 阿用川も云

高橋は阿用の川流れありとも 赤木川も流れありとも

一 大溝川

賀茂川 上はく 八田川と云

一 小雲川

荒川

一 佐川

志登川 和述川 衣川 比睿辻川

一 山上川 又伊勢川と云

一 園ノ小川

後程

喜羽山を流るる所 河原坂北瀬北小河に錦取と云く
夕ツキの玉あり 枝もこえ 林もせ 川のカハ小川は多と流

一 之川河 附稿 坂本 分枝也

善法

河原の河をそのふれおに 枝もつけ 多ふいふを流れ 之川の橋

一 東川 大津にあり

河原の河を 都をこく 子もふ 河つ内川流らる 之は

一 常盤橋 色かぬ 橋に 多ふ 河の常盤地 河が 坂原

一 常川 坂原より川末に小社あり 常盤地 河を 流る 河と 流る 河と 流る

一 中之川 瀬田にあり

一 老上川 河原にあり

一 吾光る川 境の 河にあり

一 三津川 河原にあり

一 ちとひ川 鳥居平比奈村の内川水運に 橋あり 又 ちとひ川と云

一 毛取川 馬場口より

一 ありこの橋 鏡の西にあり

一 草登川 橋ありあつたに橋と云 小谷より

一 哥法に橋 荒神山の下にあり

私に云は橋下の馬子田又の類の説に首平親王狩門首は
登ふも首程生るも一宮女出逢く 狩門は草あしと云
切しりる田原太つそありとほとと 詠を首あ月くと
るるぬ故にけ所は方強に橋と名づくとも不 彦く彦根
伊井君、仕公を事ありに 世末とにき世末に近江の説

同一実當此正とにどぬれく又此所に記しとほ人考は

一 有僧川 天保橋と云

或云 官廿分法の時小流の途く 僧とく 可長は

浮にけ強とえは 虚のとり 仍てけ川とを強川と名くし

一 夏に浮橋 石山、系橋けるの石橋と云 後とくあり橋と

一 西郊の橋 長を祢にう 歌 一 彦根せり川の橋

一 松原高橋 一 松原のからせに橋

一 八幡山定下に橋 一 長命と前渡合の橋

- 一 土山白川の橋
- 一 三井村雲の橋
- 一 山王波止シトの橋
- 一 上丹生シトの橋
- 一 川井シトの橋
- 一 多賀史シトの反り橋
- 一 尾花川シトの橋
- 一 本シトの本に右橋加の橋
- 一 上近江シトの橋
- 一 安芸山シトの橋

淡海録 七之上巻終

淡海録 第二下

池水崎 瀧谷坂石塚松柳

池者説文曰守地鐘水也矣 聖德太子召田村王子曰治田畠池塔造池往々天下无亢旱之憂百姓有富饒之悦

- 一 尼ヶ池 三井寺二王門の下にあり
- 一 淨明池 日背井にあり
- 一 杜若池 平津にあり
- 一 月見池 日色きの下にあり
- 一 大赤小赤の池 石の辺にあり
- 一 甲八曲の池 芦浦シトの池

一 石と池 石山より湧く

一 石と池 石山より湧く

一 月の輪池 磯所より

一 石と池 石山より湧く

一 茶水の池 荒井山後より

一 池系の松池 甲斐谷より

一 観音のたらい池 大根内より

一 荒川池 荒川村より

一 湯殿の井池 眞保の湯より

一 大堤の池 田上原の辺より

一 川西の池 目川村より

一 石と池 石山より湧く

一 池奥の池 小谷山の後より

一 毒水の池 荒井川辺より

一 大根の池 大根村より

一 友と池 大根村より

一 娘の池 大根村より

一 天王山の古池 大根村より

一 永糸の湯池 永糸村より

一 日と池 日と池より

一 藤原の湯池 藤原より

一 金持の池 金持より

同水

水者山泉長流為上品水者地之精液

一 三井寺 岡伽井 灵水故有其称号昔天智天皇武持統三帝
即位掘此水以奉浴湯因智證大師改三井寺

史本

公朝

一 津波や三井に玉水汲りてゆく末に

一 津波や三井に玉水汲りてゆく末に

一 園清水 古ハ牛塚の下にあり

一 園清水 古ハ牛塚の下にあり

一 園清水 古ハ牛塚の下にあり

一 遠坂走り井の水 今ニ五塚の所にあり

一 遠坂走り井の水 今ニ五塚の所にあり

一 遠坂走り井の水 今ニ五塚の所にあり

一 志賀山中の山井の水と 又志賀の山井の水とも不

志賀山 志賀山 志賀山

一 志賀山 志賀山 志賀山

一 志賀山 志賀山 志賀山

一 大津練貫水 三井寺に據るに漏出泉也 海水外の井水

一 大津練貫水 三井寺に據るに漏出泉也 海水外の井水

一 大津練貫水 三井寺に據るに漏出泉也 海水外の井水

一 大津練貫水 三井寺に據るに漏出泉也 海水外の井水

一 明帝浴水 同此 脛所にあり河原邊又ハ田島の邊あり
 一 乙湯所の水 坂本定太の上にある 世に云くちん流北
 灌頂水に用ひし水なり 又云魯山大慈坊に阿闍梨聖眼
 智行兼備此僧を以て起に信く是成願伽水と云密師
 定太流あり 此聖眼ハ之祖を以て香水病人に用ひて如
 と云天知元年の春都鄙を近より集り水と竹の筒又
 朽を色いし福を以て湯前此筒朽を水と云其疾のくを
 言を利し、福れくるぬ水ハ今にあり

一 井比房比是水 魯山東塔南谷より

一 慈惠大師獨鈷水 同華藏院にあり

一 水飯水 同坂本比半途に有 一 弁慶水 同西塔に有

一 不動水 同金堂の後に有 一 貧乞水 同護法堂前に有

一 仙人水 三井寺南谷に有 一 千層清水 坂本比田中首

一 持門首洗水 比在町に有 一 安治の水 七上郡 十五にあり

一 碓氷井水 昔ハ故大蛇素蓋命成恨しけ山中に出く災成
 らる命の湯脚熱し給ふゆを以て水に冷し給はたら
 けり熱しあり依り碓氷井と名し又一説に日本
 武尊東夷征伐して帰る時毒矢の疵甚熱し

孫不依くは水はくくゆいふに忽熱さあふ故に醒る
 井とつふとい井中石は是成等の腰掛石とい今ハ
 其乙の傍に日本武尊腰掛石とい字に記あり
 一 軍士首洗水 水口の東松の尾川を這にあり伊勢系を洗
 人け水成不飲

一 勢田川水 近江八百八州合入南溪は所に記し奥を
 風吹とらしと
 海之洲崎

一 西浦柿崎 唐崎 苗々崎 堅田北公崎

小雲々崎 からの崎 赤木崎 大石記
 清々崎 ところ崎 赤浦牧の崎 長命ろ八崎
 丸田々崎 加藤も湯崎 磯山の王崎 山田崎
 志那崎 本の後八口崎 荒神山唐々崎

一 伊崎 寺あり本尊不動ろは南を長命ろ山ろ八崎
 極好山も近し又八幡紅山とも不は海中にわたり是里有
 白部丸山王の濱奥の嶋又仲の崎とも不中の庄北津田ろ
 け所の入江に十五間の橋ありを渡會橋といふ向
 新田八幡の洲崎ありをくふとふと不は里く八渡會橋

一川口の外に陸乃れ一又伊勢守の所に竿飛りり
世に傳せられたるなり

一 磯山より北に 是高滝那の内より善後の人と云は磯
山の高四百石余を根へ納めし不け崎山は昔城山なり申々
川河を四ツ川と云は川を流す 豊原へは磯山より世に
越了河と海深河と云は河

一 豊原より北に 是高滝那の内より善後の人と云は磯
山の高四百石余を根へ納めし不け崎山は昔城山なり申々
川河を四ツ川と云は川を流す 豊原へは磯山より世に
越了河と海深河と云は河

瀧

一 比良大滝 又ハ溶漕滝とも瀑布泉とも云上の水七間
下りて又下の高六十石所都合八十石所滝のともハ
案内を江外湖と第一の大瀑あり

一 葛川明王堂の滝 是滝四十石所古昔水と昔此滝
水はけさし今ハ昔の滝には水が一高サハ八尺程あり
三階ありをれを葛川の三滝と云ふ 無動寺相庭あり
たきくともあり

一 萱尾の滝 是知川の水と之滝坪八間四方
替田北流神形
は滝三百石と云

- 一 平雲院 甲賀郡、あり 一 熊野比叡 日此の奥より
- 一 冥津大庵 冥の付比奥よりよきと八間房ありに水暖
- 一 音無の院 比叡山の西坂にあり
- 一 不動坂院 日山王の不動坂に水をおく
- 一 霧降比叡 日二の宮に好の山に水三間あり
- 一 西門の院 又八樓門の庵とよみ如き嶽にあり
- 一 善谷の院 向系へ流れるあり是と三井西門の庵と云
- 一 櫻谷比叡 此の庵かきし山中へ入るあり 此院にけしん八段庵と治れと云
- 一 櫻谷比叡 此の庵かきし山中へ入るあり 此院にけしん八段庵と治れと云

此所に櫻谷の史あり、櫻津姫の命あり、櫻谷古寺あり、
 名所あり、
 花やうて櫻谷にありと云、
 水とハ櫻谷より流るるを櫻谷川と云、
 古櫻井基佐と云、
 入るて永仙と云、
 比人と宗祇と同時連名のきき人あり、
 下とと不向院と云、
 基統ありと云、
 先の分枝難に基統ありと云、

落濟夏自神代有之委出祝詞本記

谷并坂

一 信樂谷 甲賀谷 金勝寺谷 檜谷

日野谷 市原谷 中野谷 伊吹谷

塩津谷 伊香谷 大谷 小谷

中野谷 長等谷 比良谷 大浦谷

朽木谷 杣の谷 瀧谷 睿山谷

長谷 七里山中谷

坂

一 雲母坂 ^{キラ} 睿山西坂 _有 一 東赤坂 睿山东坂 _有

一 二里半坂 朽木谷 _有 一 奈良坂 飯室坂 横川 _有

一 大浦越の坂 海津 _有 一 椿坂 斤山坂 江北 _有

一 山中坂 大板 _有 一 岩熊坂 皆掛坂 塩津 _有

一 権現坂 本ノ本 _有 一 女坂 赤坂 equal 近所 _有

一 柔鷹越坂 ^{アツトリ} _{コエ} 木ノ本 _有 一 逢坂 大津 _有

一 解虫坂 土山ノ東 _有 一 杉坂 多賀 _有 奥口 _有

一 摺針坂 己高尾坂

一 山梨坂 太尾坂 桜子峠坂 極木坂 地獄坂

弘法大師獨枝の程とくくま生れと云

一海涯石 大湫寺にありて不純なる

一石臼石 三井寺山上にあり 一本戸石ありて庭石也

一沖字石 善徳の用之方之也 一証石 妙高山の東横山村有

一鞞石 証石月可あり 一大鞞石 月可にあり

一石臼石 松原渡の西にあり 日本武尊の治子比而麻の石

一岩脇村大石 箕田岩脇村にありて高可十間余上に弘法大師

刻佛形也其鏡は光慈水無徳故に西浦に漢人以新石面とたれは石と云

塚

一木曾義仲塚 今八幡所の西にあり又大津馬場村に有之

此鏡是也

系譜云左馬頭義朝弟義賢嫡男左馬頭朝日將軍

木曾冠者義仲 江別栗津系に果 栗津松林の

内以木曾義仲の墓あり 蓋按義仲入浴自鏡禁闕辱

王候軍中携其寵妾巴女終陷栗津田沢之中自

殺与楚項羽非吳日之談

又説曰国保社有二勸請木曾与巴

一 今井四郎景平塚 膳所松原田畔に有松下に墓あり
膳所の城を建石塔

一 鷲式部塚 石山寺にあり

一 頼朝塚 月乳人親義塚 石山寺にあり

源金右大將源頼朝公乳人龜谷善女夫掃頭親義山
城遠有及運者親義於此毘沙門天勝其我因之建之

一 宇号勝南院 女本尊毘沙門天 石山南園保田跡

一 小町塚 有鳥居本 有小野宿塚 大津園寺有田跡

徒然州に小町の小町れと知りてしき。之れはとつて

強之玉造小町と及小町小町共一人ありと云は
二人あり一時代ふ十宗を隔

二人あり一時代ふ十宗を隔

小町造坂園に徘徊ありし時ありし

此のころを身はしるしありしに此の家は

日茶庵の柱に半ありし

此のころを身はしるしありしに此の家は

又小町草子あり

一 権九太夫塚 粟本那田上にあり

長明の方丈記に云田上川と後りて権九太夫墓とありし

其明所以云回上けりつと不可なりそこに猿九大夫。

墓巧りと云

尋猿九回跡記

過勢多橋就南入勢多山中出松山下沿河畔而
抵大日山下八鳥供御瀬也。有民村曰黑津自此
涉田上川過関津至大石大石実可觀焉。在有川
川多奇石布置巧妙而如人之故作趣也。渡獨木
橋至櫻谷有祠曰櫻谷宮古木森々。宮有徳宮
之後曰鹿飛殿。岩瑰奇如鑄流水如藍。激石如

絲已入百谷山有五谷故名過谷則曾束村也。自
勢多至此三里余矣。余問猿九大夫回跡指之去。此一里
許有猿九祠其地名猿九顛。又有池称猿九池。余
即躋焉。烟雨霏々湿衣山径杳冥然。到山顛則
有叢祠余拂榛棘而上。時有僕折樛來即祀之
低唱奧山歌。兩三偏揖而起矣。然歸村又問之
猿九顛幽邃則矣。然吾想非古人之可棲止者。
疑是其遊歷之處也。倘別無称猿九居者耶。村
老谷曰溪上有岩居或謂之猿九回栖相傳喜

撰法師自宇治山來此信宿去是乎余曰是也于
時日景頽而雨又催回心期它日乃歸終出白谷既
日昏矣不得已宿淀村民家燒櫛拙而燥衣倦欲
就眠余求藁敷東倚之睡天明矣同遊曰吾今聞之起
白洲渡至彼岩居危乎一里乞尋之可乎雖期它
後亦知何日也余曰然也因而登舟水急如箭隸
率掩目篙子不覺從水之力操竿如遺到岸即
行溪間奇絕徃々可記是則琵琶湖下流所謂稱
海老尾者也遂見岩居其岩圍青山臨碧水其

下百武許有鉅岩突穴高可十丈佳趣甚多空
羽率之中不可久留乎非有仙風道骨日豈能堪
樓犀乎既而經村出石山它日欲討之必可從
石山入先見岩居而后抵曾束村或攀牽猿九巖也
若追慕長明故夏涉田上川亦可也余畧記之以
為後來追遊者之司南甲辰之秋九月十七日
宿膳所記之

一石塔寺天竺塚

在蒲生郡石塔寺村 具出寺之部下

天竺阿育王殺三千后而後為善提造三千石塔

命鬼神令投之日本三来其一也

委出石塔寺縁記

一太子塚 栗本郡下物村ヲロシモにあり

一慶祚塚 三井尾藏寺北竹林にあり 詳出長等記

一安然塚 日近松之山上にあり

一龜塚 日新安森にあり

教待釣于湖喰亀理所し
其稟奥地し 長等記ニ出

一惠心塚 睿山飯室にあり

一定家郷塚 日新 一惠忍塚 石山にあり

此傳説ありしと云
世に流るるなり

一惠原太義平塚 石山にあり今台記との稱あり

一克定塚 同上 一日蓮塚 同上

一高安三河守代、塚 在高宮正西院 時宗のるる

一牛塔塚 在入津長樂寺竹林寺

昔園子此本寺にあり而日本三大佛之其一也建立

弥勒堂時一牛引材木力尽後死因有善縁告灵

夢於衆僧因之築塚名曰冥牛塔曰迦葉塔此

古供蓮祭之今廢
而知者鮮也

長明、無名所之園に清水のほとりあり古に
石塔の下一及斗小流り水成室の小河なりと云石
塔は牛塔塚のほとりあり牛塔記ハ長等氏

一 半社 新成郷の半社跡と云は云傳ふ塔中に納り
 一 弘全利と云近石谷にありと云又云塔の下に八重の
 難成理を故に塔畔に築殿と云傳ふ慶長の祀に大塚此
 山に河内より其時隠れ居りしゆと云今ハ其ゆかり
 一 蟹ヶ塚 土山系蟹塚村にあり

一 鏡大君塚 鏡山にあり
昔は谷に位大僧多客人徳僧来殺解葉塚其上植松云
 其人壬申に於東山戦死す葉其塚故
 其地曰鏡山云々

一 曾我兄弟塚 在多賀鬼王團之帯守と云

一 土社塚 横川下にあり
 一 弁天塚 藤原田代村にあり下に
横植あり

一 中川清水塚 在里南大岩山 天正の祀に志川の類に於て
討死す

一 日野大納言塚 柏原にあり 委見大平記

一 宗盛郷塚 在守山

宗盛は死後落の時江州番馬より落来終に
 自殺す蓮華寺に云寺に葬る塚あり

一 小尾馬杓塚 在伊香那東野村 又河井那列毛村にありと云

昔烈毛村小尾馬と云りの所を彼を屋敷に位杓丸三百年
 を経て河州杓の魁首と云け杓死す屋敷に塚を築と

松

一 唐崎一ツ杓 一 微妙寺の花見松 一 鉤の松

- 一 池脇のまゆり松
- 一 仁正寺傳見の松
- 一 小松の磯雲
- 一 石ヶ崎の一本松
- 一 宇流の流松
- 一 平松の蓋松
- 一 支那七糸松
- 一 神崎梨園唐蓋松
- 一 平山太子の隠し松
- 一 一切通相生松
- 一 彦根北聖寺の松
- 一 治部夕浦松

是より伊豆大と云延史也
草津御寺にあり

柳 栂 藤 蓮 杜若竹

- 一 下坂本七本柳
- 一 支那地藏堂柳
- 一 延徳寺別荘柳
- 一 大津序藏柳
- 一 賢田滋賀山栂
- 一 栂谷の栂
- 一 石山墨染栂
- 一 三井寺金堂栂
- 一 高嶋酒波栂

一 藏王のかげ栂

三山北栂 一 坂本東照宮栂

一 三井近松の蓋

一 延保列蓮の蓋

一 十枝の蓋 二十一代某に台あり

一 支那の蓋

一 比叟京大日の蓮

一 采原杜若

一 築大の杜若

一 碧見寺竹

一 長命寺の竹

一 鳥居飯森木

一 鳥居本梨

一 三井新居の蘘箴

一 膳所高木

一 飯室安永寺菩薩木

一 新羅三栖板

清
宮
文
庫
藏
書
印

南
宮
文
庫

南
宮
文
庫

